

動き出す、わたしのワカモノガタリ

ユースシンポジウム2014

今年度で15回目を迎えたユースシンポジウム。9月28日(日)、参加者189名、ボランティアスタッフや関係者の方々を含めると200名以上の来場者とともに、「対話型」のシンポジウムを開催しました。今号では、ユースシンポジウムの担当ワーカー4名と、フロアラッピングでご協力いただいた CLUB ATTRACTION (ワカモノ)による地域コミュニティ創出事業に取り組む青少年グループ)のマネージャー2名に、それぞれのユースシンポジウムを自由に語っていただきました。

若者が自分の想いを語ることで、新たな意味をお互いに発見したり、対話の中で多様な価値観に触れたり、この場が新たな価値を創造していく、アクションを起こしていくきっかけの場となることを主題に開催しました。

全体会では、4名の若者をパネリストに迎え、参加者が自分にとってのコミュニティを考える場として進められました。セミナーでは、個人ワークや

を切り口に対話できる場を設けました。

参加者からは、「自分自身が考えていることや取り組んでいることを応援してもらった」「思いが似ていることで頑張ろうと思えた」という声が多く、また、出展団体からは「想像以上に幅広い年齢(高校生/社会人)の方が立ち寄ってくださり、悩みから新しい発見など色々なシェア、交流ができました」といったご意見をもらい、お互いに「動き出す」ための刺激を得られる場となりました。

は、個人ワークやグループでの話し合いを通じて、自分自身の働きマイルドを探っていました。参加者がブースを廻りながら個々の想いに触れるトークフリマとフィールプレイスでは、「豊かさ」

「若者が主役になる一日だからこそ、企画段階から若者とともに創りたい」と願い、8名のボランティアと1つの青少年グループが3カ月半、一緒に取り組んでくれました。対話から感じたことを整理できる場を提案したり、自分事のテーマとして真剣に悩んで企画したり、若者当事者の思いや声が活きた企画になりました。また当日の交流会では、よさこい

グループからの申し出で急ぎよ演舞が披露される場面もありました。

司会や受付などを担う当日ボランティアや、出展団体の方々、そしてこの場をいっしょに創りあげてくれた参加者のみなさんに、感謝します。

中京青少年活動センター

ユースワーカー 竹田明子



第1部

全体会

「私にとってのコミュニティ〜見つけよう私にとっての大切な場所(もの)〜」

自分を「モノガタリ」 基盤とは何か

今回のシンポジウムのテーマは「動き出すわたしのワカモノガタリ」。シンポジウムを通し、参加者自身の物語が動き出すことを目標とした。プロローグとなる全体会のテーマを、自分達をモノガタリ上で欠かせない「コミュニティ」に設定。各登壇者の話を聞く中で、参加者にとつてのコミュニティの基盤とは何かを考える場とした。



- [コーディネーター]
 谷 亮治さん (京都市まちづくりアドバイザー)
 [パネリスト]
 村井 彰信さん (山科醍醐こどものひろば 常任理事)
 川上 萌仁香さん (新大宮みんなの基地 2014年度そらたねプロジェクト代表)
 中山 泰輔さん (若者と家族のライフプランを考える会 ピアサポーター)
 後藤 百合絵さん (感動創造塾スタッフ)

「コミュニティ感の違いー良いコミュニティ 仲の良い集団ではない?」

コミュニティを考える中で、メンバー間の関係性は重要である。しかし、仲良くグループ、仲の良いコミュニティというわけではない。「仲の良さばかりに気を取られてしまうと、その関係を崩さないよう発言が制限される恐れがある」と京都市まちづくりアドバイザーでもあるコーディネーターの谷亮治氏は指摘されていた。本当に良いコミュニティとは、仲が良い集団ではなく、他者と折り合いをつけるのがうまい集団なのかも知れない。

私にとって「コミュニティ」とは?

コーディネーターは、冒頭で「人は一人でも生きていけるものである」と話されていた。ただし、この後には「豊かに生きていく為には誰かと一緒の方が良い」と続く。人は誰かと物事を共有したときこそ記憶として刻まれ、それが思い出となっていく。つまりコミュニティとは、「自分の人生をより豊かにするために必要なもの」なのである。

もちろん、全員が納得する答えとはならないだろう。しかし、参加者それぞれの問いかけに対し、「応える」ことは出来たのではないだろうか。今回の全体会が、少しでも参加

者のモノガタリを動き出す原動力になったとすれば幸いである。

南青少年活動センターユースワーカー 清水方人

Program		
第1部	全体会 10:00 ~ 12:00	私にとってのコミュニティ 〜見つけよう私にとって 大切な場所(もの)〜
第2部	トークフリマ フィール プレイス 13:00 ~ 16:00	『豊かさ』を切り口にした 対話型・体感型ブース
	参加型 セミナー 13:30 ~ 16:00	若者が語る 私の働きマインド
第3部	交流会 17:00 ~ 18:00	任意参加の交流会



第3部交流会の様子

第2部

トークフリマ、フィールプレイス

22団体が参加

「動き出す、わたしのワカモノガタリ」というテーマで臨んだ今回のユースシンポジウムにおいて、参加者同士が対等な目線で直にお互いの思いを交わすことのできるトークフリマとフィールプレイスは、特別な役割を果たしたと思います。

今回出展していただいた団体は22団体。多様な価値観との出会いを生み出すため、様々なジャンルで活動されている団体のみなさんをお呼びしました。昨年度よりも出展団体の



数としては少なくなりましたが、その分じっくりと話し込むブースも多くみられ、密度の濃い対話や活動の実感を楽しんでもらうことができたのではないかと思います。

トークフリマとフィールプレイスという2つの対話型企画の大きなねらいは、「多様な価値観との出会い」、そして「未来へのつながり」でした。対話を通じて出会う、「豊かさ」の先に見える多様な価値観。その出会いが、来場者にとつても出展者にとつても新たな気づきや発見となるような、そしてその気づきや発見がそれぞれの意識や行動に少しでもつながりをみせるような、そんな「物語のきっかけ」となる場を目指していたのです。

後日、私が声をかけて出展してくれた団体のメンバーに声をかけると、「今度あの団体のイベントに行こうと思います」「話を聞いてくれた人が、私たちの活動を見に来てくれることになりました」と、新たなつながりが生まれたことを報告してくれました。少なくとも、いくつかの物語が重なり、動き始めていたことは確かかなようです。

北青少年活動センターユースワーカー

高橋要



参加型セミナー 「若者が語る私の働きマインド」

「働く」ということは、誰にとっても大きなテーマの一つでしょう。しかし、考えることは人それぞれ違います。家庭との両立を考へる人、起業して自分で自分の仕事を作る会社という組織の中で与えられた役割を全うするかを悩む人、何が自分にむいた仕事なのか分からない人、1人1人固有の悩みや考えを持っていきます。

今回のセミナーでは、「人それぞれ全く違



う」というところを感じてもらいたいと思いましたが。

同じ年代でも自分と全く違う「働く」を考えている人がいる。

もう少し上の年代の人にはこんな葛藤があるのか。

自分も大学生の時にはそんなことを考えていたな。

じゃあ自分はなぜ今このことを悩んでいるのだろうか？

人の考えを聞くことで自分を知る、そんな体験してもらいたいと思ひ、講師の橋口昌治さんと共に内容を考えました。

そして実際このセミナーでそれができたように思います。

他の参加者の「働く」に関する考え方を聞くことで、まだ「働く」ということを経験していない参加者にとってはアドバイスをもらえる機会になったようです。社会人にとっても「働く」ということについて、今、転機を迎えている参加者などが多く、その気持ちを人に伝えることで整理されたようです。それぞれにとってこのセミナーが良いタイミングだったのではないかと思います。

今回のセミナーが充実したものになったのは、参加者のみなさまとファシリテータのみならず、講師の橋口さん、参加した全ての方が自分の考えを正直に話し、話し手の考えを

講師 橋口昌治さん (立命館大学 専門研究員)

受け止める温かい空間を作ってくださいましたから
です。本当にありがとうございました。

下京青少年活動センター

ユースワーカー 久住 祐香



協力者の声

責任者として、若者として、感じた「豊かさ」が
明日から新しい動き出すモノガタリを作り、奏でていく。

私たちは、フロアラッピングをさせていただきました。このような大きな企画に関わったのは初めてで、最初は全くイメージが湧きませんでした。しかし、なんども打ち合わせをさせていただいて、「豊かさ」の木に花を咲かせることができました。

当日は、たくさんの方が協力してくださいました。その中で私自身、様々なお話をすることができました。日々の生活の中で「豊かさ」なんて考えたこともなく、私にとつての「豊かさ」って結局なんやろう？ と、ぼんやりしたままで当日に臨みました。日々の生



活の中で楽しいこと、嬉しいこと、辛いことなど、お話をし、たくさんの人と「豊かさ」を共有でき、自分自身を見直すこともできました。みんなと笑っていられることも「豊かさ」だけど、喧嘩すること、怒ることも「豊かさ」なのだ、また違う角度で見ることができました。

CLUB ACTION

マネージャー 谷垣 優花

ユースシンポジウム2014に参加させていただきました。いつも以上に賑わい、真摯に様々な課題に向き合っておられる風景を目にしました。私自身、このユースシンポジウムに参加させていただくのは2回目、毎回、参加者の情熱と熱意に感激、感化され、それぞれに持つておられる教育観や、団体をより良いものにするアドバイスをもらったりと、成長できる場ユースシンポジウムであると感じています。

今回は「豊」をテーマに進めてきました。各団体が、「ワカモノが笑顔になってほしい」という想いがひしひしと伝わり、会場全体が熱気であふれていました。「ワカモノに豊かさを」と誰もが正面から向き合っておられ、



私たちワカモノがその想いを伝播し、より良い未来、環境を作っていかなければならない使命感、責任感を感じた1日でした。

CLUB ACTION

マネージャー 藤永 啓佑